

オオクチバス等外来魚撲滅対策研究

秋の北湖で行われるオオクチバス対象の刺網の特徴

上垣雅史・上野世司・吉岡剛（水産課）

1. 研究目的

秋季から冬季（9～12月）に米原市～長浜市～高島市にかけての主要河川の河口を中心に産卵遡上するアユ群を追うオオクチバスを刺網で効果的に捕獲している漁業者がいる。当該漁法の捕獲状況や操業形態を把握するため、漁業者の協力の得て操業への同行および標本調査を行った。

2. 研究方法

平成22年9月から翌年1月に標本調査を行い、刺網の目合毎に羅網したオオクチバスの体長、体重、雌雄および胃内容物を調査した。また、この期間の駆除量および出漁日数の記録から、CPUE（一操業当たり駆除量）を求めた。胃内容物の情報から餌料重要度指標の割合（%IRI）を求めた。また、操業に同行し、網の設置方法や水域の水深等を測定した。

3. 研究結果

刺網は一枚網（ナイロンテグス製、網丈1.2m、長さ約30m）で数種の目合をそれぞれ10～15把使用し、夕方投網・翌朝揚網する方法で、従事者は2名であった。設置は、アンカーを使用せずに河口の水深4m以浅を岸に沿うように刺網を連ねる方法であった（図1）。CPUE（kg/操業）は、9月当初から150kgを超える、11月には271kgと非常に高くなり、12月には99kgまで減少した（図2）。目合毎の捕獲魚の体長組成（図3）から、使用目合の約3倍の体長が捕獲対象となった（全長では3.7倍）。10月の安曇川河口で捕獲された個体の胃内容物はほぼ全てが魚類であり、IRIでは67%をアユが占めていた（図4）。

このような操業形態の漁業者はほとんどいないが、当該漁法のCPUEは同時期の他の漁法と比較しても突出しており、オオクチバス成魚の駆除

に対する貢献度は非常に高い。



図1. 河口付近での刺網設置例(破線が刺網設置場所)。

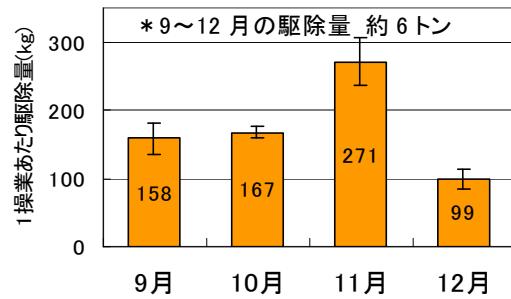


図2. CPUE(1操業あたりの駆除量)の推移。

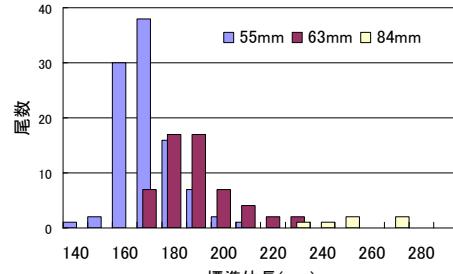


図3. 目合(55,63,84mm)ごとの捕獲魚体長組成。

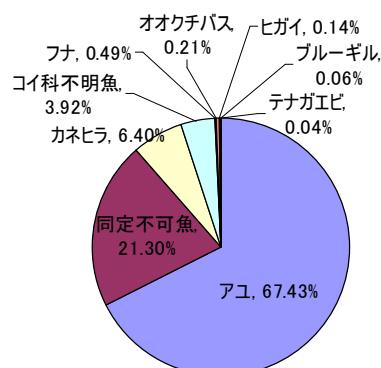


図4. 10月安曇川河口で捕獲されたオオクチバスの餌料重要度指標の百分率(%IRI)。(N=105)